

平成24年5月7日

【事務局】 ただいまから市民活動団体支援制度審査会を開催いたします。

今年度の状況を説明いたします。受付期間は、4月2日から27日、期間中に30団体から申請がありましたが、1団体が団体の都合により申請を取り下げたいという申出がありましたので、29団体についての審査をお願いします。

内訳ですが、昨年度に引き続いて同様の事業提案をなされた団体が18団体、昨年度の支援対象登録団体で今回は異なる事業内容で提案いただいた団体が2団体、今年度新しく提案いただいた団体が9団体で合計が29団体です。

分野別に見ると、保健・医療・福祉の分野が4団体、まちづくりの分野が2団体、文化・芸術・スポーツの分野が5団体、環境保全活動の分野が5団体、国際協力が1団体、子どもの健全育成の分野が11団体、科学技術の分野が1団体となっています。

事業に要する経費ですが、総合計1,870万8,760円で、そのうち、事務局で確認させていただき、支援対象となる経費の合計額が1,579万800円となっています。そのうち、29団体分の支援金希望額の合計が577万5,115円となっております。

昨年と比較すると、昨年は27団体の提案があり、審査会の審査を経て団体登録となったのが25団体でしたので、申請の時点では昨年度より2団体、なおかつ、支援金の希望額といたしましては112万635円増加しています。

以下、団体毎に各委員から疑問のあった部分につき協議。

#### **団体番号1. NPO法人幸せな家庭環境をつくる会京阪奈支部**

【仲川副会長】 木材屋をされており、つみ木を2万個配る、つみ木フェスティバルを実施するというのはいいと思いますが、委託費75万円が、また木材屋に行く感じになっているような気がします。自らの団体へ委託するということはないと思いますが、どこへ委託されるのでしょうか。

【事務局】 団体について追加説明します。このNPO法人は設立時内閣府承認で、複数の県にまたがって従たる事務所を持っています。以前、大阪府枚方市に事務所があり、平成23年11月に生駒市の高山に移転をされ、京阪奈支部の事務所を立ち上げられまし

た。この事務所を設けているのが株式会社霧島住宅という住宅会社です。この住宅会社のネットワークで木材屋があり、その木材屋に委託をされるということで、全く別組織への委託というのは確認をしています。1つ30円というのは、材料の購入から材料を切り、さらにはトラックで運ぶ、かつ10団体につみ木を寄附するという計画ですが、このつみ木を運ぶ運送料、トラック借り上げ料、すべて見込んで、個々に支出するよりは一括で委託の方が安いという説明を受けています。

【谷野委員】 2,000個を10団体に届けられ、その角取りを各団体でしてくださいということですが、危ないような気がします。

【事務局】 事務所が枚方にあるときに大阪支部として活動しておられ、つみ木を大阪市内の幼稚園や保育園に配ってプログラムをするというワークショップをやっておられます。つみ木の面取りをするというのもプログラムの一環として、ワークショップとしてやるようです。

【谷野委員】 面取りしてくださるのではないのですね。

【事務局】 面取りをすればいいのですが、それだと既製品のつみ木と一緒に、木にふれるということもプログラムの1つにしたいということです。実効性という面では、大阪の幼稚園や保育園とのネットワークというのを築いているので、まだ生駒は去年の11月に移転されたばかりですので、これから教育委員会に打診はされていくようですが、ネットワークを使って保護者を通じて幼稚園などにも話をしていきたいとおっしゃってました。

【仲川副会長】 小学校などの施設はいいと思いますが、他の県では、プラスチックのかわりに木のボールプールにしてあるのが物すごくいいです。それが図書館などにも置いています。だから、木のボールは投げたりする子がいて危ないから、そのプロテクトは必要ですが、もう少し公益性という意味では広められてもいいかなと。そこの幼稚園の子だけでなく、一般の人も行ける公民館とか図書館などに将来的には広げていけたらいいと思います。

## 団体番号2. ブナッコクラブ

【事務局】 この団体は設立が平成22年と新しい団体で、この支援制度を機に規約を整えました。元々は3人ぐらいで活動を始めて、「針葉樹の山が増えてきて山が大変やせてきた。その中で、広葉樹林をつくって、広めて、豊かな森にしていこう」というのを目的

として始めた団体です。ドングリを拾ってきて、そのドングリをポットで30センチぐらいまでに育てて、後は植樹をしてくれる団体に寄附をする、もしくは希望しておられる個人の方でもお渡しする、みずからも植樹をするという活動をはじめ、ようやく今年になって植樹までされました。今後は、これをしっかりと根づいたものにしていきたいということで、生駒市では里山保全をする活動の団体や棚田を保全する団体がたくさんありますので、そういう団体と一緒に協力してやっていきたいということで提案をされました。

支出項目の内訳書の公共交通機関の交通費14人分というのは、メンバーの人がドングリを拾いに行き、かつ植樹をする現地に行き、かつ、材料などを買いに行く、ありとあらゆる交通費の1年分を5,000円上げておられます。これは去年の実績に基づくものです。

当初の企画相談の中では、市民を巻き込んだ何かできないかということで、フィールド調査も考えられましたが、まだ団体として企画を広く進めていくまで十分力がないので、今回については、市民参加の勉強会を6月、7月に1回計画をされ、あとは、基本的に、環境保全活動をメンバーで進めていく。今後、もちろん軌道に乗っていけば、団体も市民を巻き込んで植樹祭をやりたいと考えているようです。

【中川会長】 小さく産んで、成長しつつある団体ですね。

【事務局】 そうですね。個人レベルでやってきたことを、ようやく他の団体と一緒にネットワークを組もうとか、市民の人に活動を知ってもらおうと、この団体自体が育ちつつあると思います。

### **団体番号3番.いこままプラス**

【宮西委員】 基本的にはオーケーですが、自主財源が支援金と同額を上げているので余裕があるのかということと、事業内容の親子コンサートの確認したいと思います。

【事務局】 自主財源ですが、メンバーが毎月1,000円ずつ会費を払っています。また、2008年から活動を始め、演奏に来てくださいと声がかかる人気の団体ですので、そういう演奏会での謝礼をためて、充当するというで考えています。

自主財源も非常に苦しいですよという話もさせていただき、事業収入、参加費はどうですかという話もしましたが、親子コンサートということで、気軽に来てほしい、小さい子どもを抱えているお母さんが気軽に来られる場をつくりたいので、ぜひ参加費は0円にしたいという意向でした。

2年に1回は自主コンサートを開いていますが、今回提案いただいたのは、ママさんブ

ラス体験コーナーといいまして、事前に参加者を募って、一緒に練習をして、その参加者が本番の舞台に立って1曲演奏するという機会を盛り込んだ企画です。

【中田委員】 参加費などはとらないのですね。

【事務局】 子どもからも参加費を徴収するとなると、参加へのハードルが少し高くなってしまいますので、できるだけ参加費はとりたくないということです。

#### **団体番号4番．生駒市グラウンドゴルフ協会。**

【事務局】 生駒市のグラウンドゴルフ協会の中に地域ごとにチームがあり、日ごろ、そのチームでの活動を行っておられますが、この支援制度があることをきっかけに、市民交流会を昨年から開催しています。昨年342名参加のうち一般参加者は113名あったということで、メンバー以外の市民が参加してグラウンドゴルフに興味を持たれ、また、子どもたちも参加したということも聞いております。

【中川会長】 共益事業でないということが確認できたらいいと思います。

【事務局】 団体の中での共益活動は定例の26支部での活動だということで、その支部活動とは別に、市民に開かれた企画です。

#### **団体番号5．市民劇団シアター生駒**

【事務局】 市民劇団として市内で活動している劇団ですが、この本公演というのは毎年開催をしておられまして、北コミュニティセンターのホールでやっておられます。それが社会教育施設有料負担ということで負担が多くなってきて、できるかどうかということで、毎年それを楽しみにしておられる観客の方からも、ぜひ続けてほしいという声があって、今回申請されました。毎年このタイムスケジュールでやっておられるようです。

【中田委員】 事業計画に市民が演じるとありますが、この趣旨でできたらいいかと思っています。

【事務局】 ここでは、市民が役者になってという意味を持つての体験ではなく、本物の演劇を見るということを経験と書いています。だから、舞台に立つことを「演劇を体験し」ということではないです。そこに行って、テレビとか映画とかではなく、リアルタイムで演劇を楽しむ、体験するということです。

【仲川副会長】 社会経済情勢から見て、この公演1日に音響、舞台とかで59万円というのはどうかと思いました。

【宮西委員】 ふだんの公演もこれだけお金かけているのですかね。ホームページを見たら6月に公演されて、入場料が300円となってました。今回の事業では1,000円となっていて、その違いは、演劇の演題や規模などにより、その委託料などが変わってくるのかなと思いました。

【谷野委員】 舞台費などは見積書などで確認はされているのでしょうか。

【事務局】 見積書の添付等は義務付けては 아닙니다。

【仲川副会長】 事業計画書に本番がいつなのかは書いていないですが。

【事務局】 12月上演予定とのこと。というのも、ホールを予約受付期間ではまだないので、まだ決められない状況ではありますが。

【中川会長】 金額が高いという印象は、ほかの活動に比べてホールを使う場合、高くつくのは分かりますが、実際、この制度に登録されて、支援がそれだけ集まるかどうかの問題はまた別ですよ。そこでもう一回、結果を見てどうされるかですね。

【事務局】 演劇に関する委託料というのは、1人につき幾らでという積算ではないようです。これぐらいの大道具を使うのであれば、この金額ということのようです。

【宮西委員】 支援が集まらなかったら、自主財源を上乗せして、この内容でやろうと思っているのでしょうか。

【事務局】 選択結果を見て取り下げるということは聞いていません。

【宮西委員】 これを機会に、大がかりな舞台設定で上演してみたいとかいう思いがあるのですかね。

【事務局】 ただ、この企画に関しては去年の実績に基づいて予算を上げておられますので、今までの実績から膨らませていくということではないと思います。

【中川会長】 舞台製作費38万はそんなに高くない気がします。

【事務局】 音響とか照明などの機材も委託先が準備します。通常のホールにあるものを使うのではなくて、追加の照明とか音響も全部持ってきて、その運搬料、もちろんトラックの使用料、人件費も含めての委託料となっています。

【上田委員】 去年も同じよう公演をされたのでしょうか。

【事務局】 トータルの事業経費が去年これぐらいかかったという実績に基づいています。

【上田委員】 そうすると、今回は生駒市の支援金をもらえるので、事業収入はこれぐらいに抑えてということでしょうか。

【事務局】 今までは施設使用料が減免されてました。その分の負担は団体がすることになります。

【上田委員】 会場費、設備費だけですよね。22万円ですね。30万円ほど出ていますよね。そうすると、去年はもう少し事業収入的には客単価は高かった。

【事務局】 去年は支援制度での事業ではなかったもので、事業実績報告は出していただいてません。

【中川会長】 参考までに去年の実績を取られたらどうですか。このままであればお金がかかり過ぎていると皆さんが感じられています。

【事務局】 この団体は年に何本か演劇をしておられて、そのうちの1つが市教育委員会からの委託もあったと聞いておりますが、確認しておきます。

【谷野委員】 もしも支援金が集まらなかったどうなされるのでしょうか。

【事務局】 団体には、9月に市民の選択の結果を公表し、公表の後、取り下げ、また内容の変更の期間を設けますということは伝えてあります。事務局としては、それも御理解の上で9月からの事業実施期間を見込み、そこで事業規模を縮小されるのか、自主財源を積み重ねるのかの選択をされると思います。

【中川会長】 団員による団員のための発表会という受けとめ方をされないような仕掛けはどこか欲しいですね。つまり市民にとっての交流の場みたいなものはないのでしょうか。市民が観賞するだけで体験というのは弱い。何かそういうところが欲しい。

【事務局】 この団体は専門性を高く、スキルを高く、より質のいいものを市民の方に市民劇団として見ていただきたいということなので、話を聞いていても、その専門性というのはとてもアピールされています。

【中川会長】 例えば文化庁の助成をもらうとか、地域創造の助成をもらうなどの場合は、この団体はいけると思いますが、市民活動団体支援金の話であれば、芸術水準の高さというところに対して評価するようなものではないし、それをこの審査会から言うのではなく、最後は市民からの選択届出でしょう。そうすると、大衆芸能のようなみんなに分かりやすいものが票を集める。そうすると、この団体のようなレベルを維持しようとする団体は孤立していきます。団体側にも、そういう演劇というのが市民の財産になったり、何かのチャンネルというか、そういう情報を発信するといった面が欲しいです。もう少し市民目線を意識し、市民がバックアップし、活動を通じてまた市民に返すというメッセージですね。

もう1つは、見積の精密なのが欲しいです。演劇はすごく金がかかりますので、金額的には問題はないかと思いますが。先ほど言った市民から選択してもらうところを、今回どう位置づけができるのかというところでもう少し味を出してほしいということです。

## **団体番号9. アトリエくじらのクー**

**【事務局】** この事業は、スタッフ2名で実施される予定で、今まで神戸や大阪でも活動しておられました。元々彫刻が専門の造形の芸術家の方ですが、大学での講師や研究所の講師など多様なところで活動しています。今までは神戸や大阪で活動しておられましたので、住んでいる生駒市で地域に根差した活動をしたいということで、申請されました。実際には2人で講師、指導をされますので、通常の一般的な絵画教室ではできないようなきめ細かな対応をしたいとの思いから対象者は10名を想定しておられます。

**【仲川副会長】** 障がい者10名募集をされるということですが、募集してたくさん来る場合でも、10名に限られるということですね。

**【事務局】** この団体さんだけではなく、これから生駒で事業をやりたいと思っている団体でも、やはり最初は実績がないと人も集まらないし、自分たちの活動も知ってもらえない。そうなる、最初は小さいところから、また、団体として、この支援制度であれば2分の1は自己負担となってしまう、その出せる金額を考えれば、やりたい、やれると思ってもできないとか、自分の準備ができる範囲でとなってきます。今後、何年かたっていけば、参加者だけでなく主催者を支援するメンバーも集まり、また対象者も増えていくのかなという期待を込めています。

**【中川会長】** 障がい者を対象としているということなので、10人が少な過ぎると言えないことはないですが、少数な場合でも、公益というのは成り立たないことはないの、そういう意味ではいいのかと思います。

**【事務局】** 9月の造形ワークショップでは芸術会館美楽来を使って実施されます。10月のスケッチ会は屋外に出てスケッチ会を予定しています。作品展についても美楽来会館の展示室ということで、使用料を計上していますが、この作品展は、作品を飾るだけではなくて、保護者も交えてアートが子どもの成長にどう役立つかなどディスカッションをすることも予定しています。

**【上田委員】** 10人というのは、それぞれ、造形のときもスケッチのときも作品展のときも固定メンバーですか。

【事務局】 はい。

【上田委員】 交流会にほかの方々が入って、そこでディスカッションなどしたほうが広がっていくのでいいかなと思います。

【事務局】 作品展のときは広げてディスカッションをされます。だから、今回の10名の中には入らなかったけれども、障がいのあるお子さんをお持ちの保護者の方などがその作品展に行かれて話をするということはされると思います。

【上田委員】 10名の方の作品を題材にして、作品の展示会の中では広がりを持たせたディスカッションになるということですね。

【事務局】 はい。

【中川会長】 障がいを持つ子どものためのという美術とか造形とかいうのは生駒に今までありましたか。

【事務局】 私どもは把握していません。

【中川会長】 そういう意味では、エイブル・アートということもありますから、いいことだと思います。

【仲川副会長】 講師代を取るといいと思います。公益非営利活動なので無料ですべきというのはおかしいと思い始めているので、そんなにすごく高いわけでもないし、その時間を費やされるのであれば、プロなので当然だろうと思います。

#### **団体番号14番. 遊楽民PLUS&Next**

【事務局】 平成23年度も御提案をいただいた団体です。今回も同じ内容での提案ですが、昨年度を踏まえて追加をした点があります。

緑ヶ丘中学校、生駒南中学校を中心として吹奏楽の指導をしている団体です。今回は支援対象事業の名称が吹奏楽演奏会の勉強会と御提案をいただきました。勉強会について何ですかと聞いたのですが、子どもたちの成長を日ごろから支援していただいている地域の人に見てもらいたい。だから、完成された、格好のいい、でき上がったものをきれいな舞台で見ただけじゃなくて、必死で頑張っている、練習している姿を見てほしい、また、そうやってだんだん、子どもたちもこうやったら上手になっていくんだよということで、初めてだけどやりたいと思っている人たちも巻き込んでいくようなことをしたいということで、今回、勉強会ということを追加されました。

内容としましては、夏休みの期間中にこの団体と緑ヶ丘、生駒南中学校の合同練習会と



いうのを実際に見ていただくということを追加しておられます。

この団体は地域に根差した活動というのを意識していて、この事業計画書の目的及び効果のところにも「市民に音楽を提供する。また、演奏を通じて中学生から地域社会を意識した人材を育てる。地域住民に子どもに関心を持ってもらう」ということを事業の目的に入れておられます。

昨年度も提案いただきましたが、この代表の方がお住まいではない自治会から「支援制度を出していたね。自分たちの自治会も夏祭りをするので演奏しに来てくれないか」という問い合わせもあり、団体としても、もっともっと地域とコミュニケーションを図ってきたいとおっしゃっていました。

【仲川副会長】 ブラスバンドの活動の域かと思ってましたが、説明でよく分かりました。

#### **団体番号 15 番. スカウト連絡協議会**

【事務局】 昨年は8つのプログラムを1つの継続性のある事業として提案いただきましたが、今回は事業を1回にまとめて実施され、ふれあいフェスタ、ガールスカウト・ボーイスカウトと遊ぼうということで10月に1回、実施予定です。

【上田委員】 平成23年度で8つの事業、しめ縄作りとか、いろいろされていたみたいですが、大きなイベントを1回実施する方がPR効果は高いということで事業計画さえているようですが、1回を祭りのようなものにするとしか書いていないので、何をやるのかというのが分かりませんでした。それで、この事業すべてに通じるのかと思いますが、前年度からの継続事業については提案書の中ですべてを説明しようとする意欲が非常に乏しいと感じまして、特にボーイスカウトについては祭りをやるとしか書いてなくて、何をやるのかということが全然分からない。一方的に、それをやっているより1つにした方が高いので決定をしたと。実証もないし、これだけでは何をやるのか分からない。

【中川会長】 前年の総括に基づく今年度のテーマが書かれておらず、ふれあいフェスタの中身がよく分からないです。前年も一般参加者がこられたようですが、今年度も一般参加者が入れるプログラムを主としてこれだけ用意してるという記述をしていただけたらと思います。

【上田委員】 一度にまとめてやるほうが効果が高いというのであれば、そこまで計画になっている、効果が高いということに至っているかと思いますが、その割には計画が示さ

れていない。前年のように季節に応じた事業がいいのかと思います。

【中川会長】 一度に大きな規模にするということでもいいと思いますが、それであれば、効果の高かったものを残して、それで規模を大きくしますという提案でもいいのでしょうか。昨年8事業をやっていたものを1事業にまとめるのか、なぜ効果が高いのかという説明が欲しいです。

#### **団体番号16. 鹿ノ台納涼祭実行委員会**

【上田委員】 美鹿の台住宅地と連携を図っていくということですが、そもそも33年間続いている地域イベントに、行政が補助をするというのはどうなのかと。行政は、まずそういう仕組みをつくって、後は地域に流していく、任せていくというのが今の時代の流れですが、元々確立されているイベントに後から行政がこういう形で補助を出していくというのはどうかという気がしています。

それと、納涼祭自体の記載もないので、具体的な内容が分からないです。

【中川会長】 これに似たものが団体番号26の高山盆まつりです。高山盆まつりについては、地域の団体の横のネットワークをつなぎ、将来的には高山全体の市民自治協議会みたいなものをつくっていききたいというコンセプトがあったので、去年はオーケーにしました。だから、上田委員がおっしゃった理屈からいうと、今年の納涼祭では希望額である50万を使ってどんな飛躍を遂げようとしているのか、どこに向かおうとしているのかを示してもらいたい。

【事務局】 鹿ノ台地区には11の自治会があり、連合会として組織され、納涼祭実行委員会はその下部組織ですが、今回は、同じ小学校区である美鹿の台地区にも呼びかけて、市民自治協議会を視野に入れて、一緒に活動していきましょうということです。

【中川会長】 そういうことであれば、事業計画書に、地域全体の活性化につなげるために市民自治協議会を結成していくという主旨の記載があったほうがいいと思います。

#### **団体番号17番. 生駒市少年少女合唱団**

【事務局】 4月の定期演奏会、8月のひまわりコンサート、11月のリベラルコンサート、1月のファミリーコンサート、4回のコンサートを実施されます。使用料は当日のみの計上で、練習のときの経費は含まれていません。

報償費の講師謝礼5名分ですが、これはコンサート当日の4回分と、コンサートの練習

として1回分です。コンサート当日の費用が違うのは、コンサートの会場の大きさであるなどによって講師謝礼が3万円であったり6万5,000円であったりということで金額が変わってます。

【仲川副会長】 いろいろな老人ホームに行かれて、どのぐらいの人が聞かれるのかとか、余り中身が分からないですよ。すぐお金をかけて先生をして、いろいろ事務用品を使う予定ですが、どこで何を、どういうコンサートをしているのかと思いました。

【中川会長】 定期演奏会、ひまわりコンサート、リベラルコンサート、ファミリーコンサートとありますが、リベラルコンサート以外は、団体の自前の発表会の名前をかえているだけにとられても仕方がない。様式第4号では老人介護施設への慰問コンサートや生駒市内等でのふれあいコンサートと書いてあるでしょう。ふれあいコンサートというのは事業スケジュールのところに出てきていないです。内容について精査し、自らの発表のための演奏会にはこの支援金は適用できないということです。

## **団体番号21. M' s S o u n d F a c t o r y**

【事務局】 昨年と同じ事業の提案ですが、生駒は小学校でのブラスバンド活動、吹奏楽活動というのが大変盛んでありまして、そこから中学校、高校、大学と上がっていきますと、地域を離れる方も多く、また、その地域での小学校、中学校でできたネットワークというの、それを形にすることがないということで、若い人たちを中心につくられている社会人の団体でございます。

色々なコンサートをやっており、吹奏楽のコンサートや、管楽器だけのコンサートなどを開催し、今回は、市民の人に受け入れてもらいやすい曲を選んだポップスコンサートの開催を支援対象事業としています。

【仲川副会長】 先ほどのシアター生駒と同じですが、観客として来てもらうということで公益性とと思っている部分があるかと思います。ただ、ファンも多くて、たくさん参加される、それをもって公益性と読んでいっていますよね。だから、対象者がすごく少なくてもオーケー、あるいは、観客として、ただ見るだけの人が来るということでもオーケー、どちらもオーケーに、今、流れとしてなっていると思っているのですが、そうすると、これも同じです、根拠は。

【事務局】 文化・芸術・スポーツの分野は非常に難しいです。

### 団体番号 23. 生駒えんゆう会

【宮西委員】 昨年、事業収入で30万の決算でしたが、今回、協賛金が事業収入というのですが、半額の支援金を充てるためにそういうふうになっているのかという理解でいいでしょうか。

【事務局】 協賛金と自主財源は、実績ベースです。他に実施している事業は、今のところはありませんので、例えば自主財源があるとか他の収益事業があるというわけではないので、支援金の不足分は協賛金でということに今年もなるかと思えます。

### 団体番号 24. ひまわりつどい

【上田委員】 計画性が少し乏しいかなという印象を受けました。

【事務局】 この団体は設立が1985年とで大変実績がある団体です。知的障がいがある子どもと、その保護者の団体から団体を支援するグループとして立ち上がっています。

年間を通じて福祉センターでひまわりサロンを開催していますが、年に1回、山麓公園にある野外活動センターでバーベキュー、レクリエーションを実施しています。主には社会福祉法人かざぐるまという授産施設に通っているメンバーや職員の方を通じての参加者を募って、実施をされ、またこれに合わせてボランティアを募っています。

この団体は、自主財源が2万5,000円しか出せないで、総事業費5万円でできる企画を計画されています。継続している事業ですが、昨年、この支援制度に申請したことにより、ららポートに登録している他団体ももちつきの手伝いをしてくれたりとか、プログラム、木工クラフトをメンバーに紹介してくれたりということで、ネットワークができてきたということで、支援制度を利用することで広く活動を知ってもらえるというメリットを感じておられます。

### 団体番号 26. 高山盆まつり実行委員会

【事務局】 先ほど鹿ノ台の納涼祭も高山盆まつり実行委員会も、この企画の中で委員の皆さんから御意見をいただくレベルとは違うのかという気もしており、制度そのものとして、昨年の審査会でも意見があったように、地域枠・地縁団体枠、NPO枠というものを設けていくべきなのかどうかというのが、近い将来なるのかとは思っていますが、最初の3年間は、事務局としては現状のままでやっていきたいという思いがあります。

【中田委員】 鹿ノ台納涼祭の際にも出てましたが、市民自治協議会を視野にいたしたも

のが分かるようにして欲しいと思います。

#### **団体番号 28. 特定非営利活動法人子守**

【仲川副会長】 先ほども言いましたけど、賛同者、観客予定人数ぐらいいはないと分からないです。自分たちの選手だけがやるのか、親ぐらいいが見に来るのか。参加呼びかけとは書いてありますが、小学3年生対象となっているし、そんなに集まらないのではないかと思います。

【上田委員】 小学3年生の大会ということですが、競技人口とチーム数の関係などが全然明らかになっていないですし、自分たちありきで考えておられるような気がするので、もう少し、何チームが参加するかとか、どういう大会にしていくのかとか、3年生のチームがこれだけあるのに大会が少ないという理由も必要なのかという気がします。

#### **団体番号 30. 生駒フットボールクラブ**

【上田委員】 大会を開催するとはしか書いておらず、どういうものか全然イメージできませんでした。トーナメント形式の大会だろうとは分かりますが、地域交流大会とは何を意味しているのか、イメージできませんでした。

先ほどにも言いましたが、継続事業については、丁寧さに欠ける事業計画書が見受けられるので、これはもう少し精査が要るかと思います。